

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成29年11月1日（水）

午前11時00分 開会

午前11時36分 閉会

場所： 全員協議会室

〔市長発言〕

榊原純夫市長：本日、上程議案の補足説明ということで、全員協議会を開催していただきました。2番目の議題のところの「半田市立半田病院の移転新築予定地を問う住民投票条例について」でございます。議案書の22ページに少し記載をさせていただいておりますが、後ほど、この条例の制定につきましては、担当の企画部長から、住民投票自体がなじまないのも、条例設置の必要性もないことを説明させていただきますが、すでに新聞やテレビ、マスコミ等で報道されましたとおり、10月30日、大村愛知県知事が定例記者会見の場で半田病院の新病院建設予定地につきまして、住民投票による市民の間の感情的な対立、あるいはしこり、そして今後の半田市政に無用な混乱を招くことを避けるために、一例として半田運動公園東側地域の適地を検討してはどうかという提案がありました。半田運動公園につきましては、新年早々、愛知県と国等が関わります、被災者の小牧空港への送致等をするための訓練をする場所にもなっておりまして、将来的にそういう適地であるということから、その場所にあることについては大変望ましいのではないかというふうな発言がありました。新しい病院の建設の認可、あるいは第3次救命救急センターの指定につきましては県が許認可を持っておりますし、この度、そういう知事からの意見を踏まえ、それを反故にすることは今後の私共半田市と愛知県のいろんな、病院のみならず諸施策の進展にも問題がありますし、今回は大村知事の提案を真摯に受け止めさせていただいて、ここには今一度、立ち止まって冷静に考えさせていただくとありますが、職員駐車場にということに関しては断念をせざるを得ないのかなと思っております。ただ、手続きといたしまして、あり方検討委員会の皆様方にも十分協議をいただきましたので、その委員の皆さんにも改めて現状について報告をさせていただいて、理解をいただきたいと思っておりますし、今日5時から、半田病院の院長始め病院の幹部の皆さんにも職員駐車場へ早期の建設をということで、いろいろ一つのチームとして、仲間として取り組んできた経緯もございますので、その病院と一緒にこのことについて協議をしてきた皆さんにも、きちんと説明をして理解をしたのち、最終決定してまいりたいというふうに思っておりますので、私としては断念せざるを得ないと思っておりますが、道義的な責任も市長としてありますので、最終決定をするのは少しお待ちをいただきたいと思っておりますが、私としては断念せざるを得ないというふうに思っております。ご理解賜りますようお願い申し上げます。以上でございます。

[上程議案の補足説明]

1 専決処分承認について（平成29年度半田市一般会計補正予算第4号）

滝本均総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 半田市立半田病院の移転新築予定地を問う住民投票条例について

竹部益世企画部長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：条例の中身につきましては特に質問はないのですが、市長の意見書について一点お聞きしたいと思います。先ほど冒頭に市長が説明をされた中で、せざるを得ないという言葉が重複して使われたと思いますが、要するに仕方がない、本当はそうしたくないけどそうするという意味の日本語だと思えますけど、職員駐車場を適地としてきた市長の理由としてみては、時間的問題やコスト的な問題、その時間的な問題が半田病院の経営の破たんにつながるということを散々今まで市政懇談会の場等で、高台にしたらどうかという意見を退けてきた大きな一つのキーワードになってきたと思います。今回は、せざるを得ないということで、適地とされてきた市職員駐車場を放棄して、違うところへ行くといったときに、今までリスクとしてあげてきたことが、全部なくなるわけではないと思います。時間的にすれば6年から10年開院が遅くなるだとか、コストが割高になるだとか、半田病院は今すぐ今の職員駐車場へ建てるスケジュールでやらないと経営的に破たんしてしまうというこのリスクはどう乗り越えていくのでしょうか。逆に言うと努力でリスクは乗り越えられるわけではないと思うのですが。そこら辺の整合性をどういうふうにお考えかご説明願いたいと思います。

榊原純夫市長：その件に関しましては、30日の午後2時に知事公館にお邪魔して、知事と話をさせていただきました。知事も本音でいうと職員駐車場にするのもよいとおっしゃったのですが、先ほど述べましたようにやはりこうした大きな問題、半田市のみならず近隣市町の皆さんの健康、生命に関わるようなものを造るようなときに、もっと大きな観点も必要だし、少なくとも例えば100人半田の市民がいたら80人、90の方がやむを得ない、それでよいという大勢を作ってやるべきことだと知事はおっしゃいました。そういった意味で時間的なリスクなどもありますので、愛知県として、知事としてもそういったものがクリアできるように、最大限の協力をしていただけるということもお願いしたら、その点につきましては了解していただきましたので、確かに場所を変えるということによる時間的なリスクも出てきますけども、そのリスクが最小限になるように努めていく以外ないというふうに思っております。当然、愛知県の協力も必要でありますけども、その協力を得ながら努力をする以外はないと思っております。

中村宗雄議員：時間的なリスクにしてみれば、許可権者である愛知県知事がご協力いただけるということがあれば、今まで言っていたスケジュールよりすごく短縮してできると思います。その中で今月発行の市報の見開きの一番下に半田病院の経営的なリスクということがあれだけ書かれている中で、その辺の部分

はどういうふうに乗り越えていくおつもりなのでしょうか。

榊原純夫市長：まず、土地につきましては、市が保有しておる土地を利活用することで土地取得の経費は生じないと思いますし、そういったことも含めましてそういうリスクを、ゼロにすることはできないかもしれませんが、より少なくするように努力する以外ないというふうに思っています。少なくともこのまま職員駐車場に新しい病院を造ることをしても、愛知県からの協力がいただけないことには、それは進んでいかないことになりますので、それはやはり最終判断として避けるべきであるというふうに判断したところでございます。

中村宗雄議員：その市長の判断は正しいと思いますので、ぜひ、先ほど言われたように正式な判断を下すときには、いろいろなスケジュールもともに示していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

石川英之議員：冒頭、市長のお話の中で職員駐車場に建設することを断念せざるを得ない、せざるを得ないというのを3回ほど聞いた記憶があるのですが、もちろんあり方検討委員会ですとか、病院長を含めて多くの方がこれに携わっておりますので、ここでそう簡単に明言をできることではないと思うのですが、非常に奥歯にものがはさまったような言い方だというふうに感じたのですが、ぶっちゃけた話、市長の中でこれはもうゼロと考えれば、とらえればよいですか。この場で決めたということは言えない、もちろんそれはわかります。その中で市長の思いとしては、もう職員駐車場に建てるということはゼロだ、ゼロ%だというふうにとらえればよろしいでしょうか。

榊原純夫市長：断言はできませんけど、そのようにとっていただいて結構です。

嶋崎昌弘議員：今の言葉は十分受け止めますけども、最終決定は後日と最後におっしゃられたのですが、市長が考えている後日というこのタイムスケジュールというのほどのような感じで、どのようなかたちとなってくるというのを端的にお願いします。

榊原純夫市長：すでに、あり方検討委員会の座長を務めていただいた、名大病院の石黒院長先生のアポイメントは取っていまして、11月早々にお邪魔して話をしてくる段取りはできていますし、他の委員さんにも速やかに手続きして、きちんとご理解いただくうえで努力をいただきますし、病院の院長、副院長始めこういうことを進めてきたメンバーの皆さんにも、今日5時から病院まで足を運んで説明をさせていただく段取りにはなっていますので、なるべく早くやりたいです。

嶋崎昌弘議員：なるべく早くということは、正直言って6日から議会が始まりますので、このところにこういった意見が述べられているところに、きちんと早く議決しなければならぬのですが、市長の考えがそういう考えであるということは、本当にそういったかたちで、後日、後日というかたちで延ばされると、またこちらも困ってしまいますので、本当のところそこにして、そこはそこで結構だというかたちで、今のところはゼロというかたちで石川議員の答えに出ましたけど、じゃあその次の検討みたいなかたち、どうやって決めていくということは具体的に出ているのでしょうか。

榊原純夫市長：いずれにしても、次の病院をどこに造るか、このことに関しては今年度中にとということで、すでに30日の県庁における記者会見の中でも述べ

させていただきましたので、遅くとも来年の3月までには、次の病院を具体的にどこに造るのかということは、決定をしていきたいというふうに思います。

嶋崎昌弘議員：もう一点だけ、それは造るということはあくまで高台というイメージを意識してよろしいのでしょうか。

榊原純夫市長：高台ということを含めて、少なくとも職員駐車場ではないということでご理解いただきたいと思います。

加藤美幸議員：今日夕方から病院関係者に説明とありますが、新しく半田市立半田病院あり方検討委員会の委員の皆さんを招集して、また病院についてお話されるかと思いますが、そのメンバーの構成というのは、前回の方たちと代わるのでしょうか。

榊原純夫市長：私が説明をさせていただきましたのは、長い間、石黒名大病院長含め委員の皆さんにいろんな候補地を比較検討していただいて、最終答申を職員駐車場にということにいただいていますので、そこはきちんと今回の報道について説明をさせていただく必要があるということで述べさせていただきました。そういう意味でございます。

加藤美幸議員：また、それに向けて新病院についての新しい委員会というものは、立ち上げるのでしょうか。

榊原純夫市長：時間的なものもありますが、例えば、半田市の医師会の会長さん始め識見を有される方に、当然市民の代表の皆さんにも入っていただく必要があるかと思いますが、そういった皆さんにご意見を頂戴しながら、最終決定してまいりたいというふうに思います。

山本佳代子議員：先ほどの愛知県知事とのお話の中で、最も知事が懸念したというのはどういうところであったかということと、もう一つ小牧空港と新しくできる病院との連携と言いますか、そういうようなことを少し言われたのですが、そこら辺のもう少し詳しいお話などありましたらお願いしたいと思います。

斉藤清勝防災監：かねてから、愛知県から半田運動公園を大規模災害時のDMA T、それから多数のヘリコプター、緊急車両の終結拠点に指定をしたい旨のお話を伺っておりました。協議を重ねてまいりまして、年明け1月には現地で大規模な搬送訓練等を実施する予定でございます。この施設は、小牧空港の次に県が県内に指定したい、前進型のSCUと申しますけれども、災害時の医療部隊が集結する地域という指定を愛知県からぜひ、とりたいということでこれまで指定をしておりました。当然この基地を中心に県内、そして県外の医療機関の方に重篤者を搬送していく計画でございます。小牧空港一点のみの搬送ということは考えておりませんので、多方面に状況に応じて患者を搬送していく拠点となるそのように認識しております。

山本佳代子議員：そうしますと、やはり知事が言われたことというのは、住民投票という無用なことを避けるようにということと、そのことが一番の半田市と話し合いたかったことということで認識させていただいてよろしいでしょうか。

榊原純夫市長：知事は住民投票が無用だとはおっしゃってなくて、こういう問題については住民投票ではなくて、いろいろ調査研究して見える議会が決めるべきではないかということをおっしゃったわけで、住民投票が決して無用だとい

うことをおっしゃっていません。それから、先ほど知事が一番懸念をということでございますが、やはりこういう市民の皆さんが大きな関心を寄せられるようなことに関しては、大多数の人がそれでいいという状況でないはずいのではないかということ懸念されて言われたものであります。知事も早く造ることの必要性は認識していただいていますし、そのことに関して愛知県として、知事として協力をさせていただくという言質をいただいております。